

## おかの渡し(上氏家町)

昔、ひな川(豊むかしむかし第二集「むかしの川はあばれ川」を参照)の主流は、岡山の南の方から野田の方へ流れていました。

上氏家から野田へ行くのには、渡し舟に乗るしか方法がなく、この渡しを「おかの渡し」と言いました。野田から岡山へ柴一ツ拾いに行くのも船にたよっていました。

このひな川は、日によって大変波が荒く、時々船が転ぶくしたそうです。

また、今から約三百年程昔、延宝四年(千六百七十六年)には、ひな川がはらんして野田は大洪水になり、家財道具が流されたと豊村誌に記載されていますが、今のわたし達には想像もできない話です。



おかの渡 月澄みて

おかの渡しを 帰る芝人

このうたは、平安時代の歌人、紀貫之が詠んだものだとはい伝えられています。

岡山に登ったところ、月が澄んでいて大へん美しく、下を見れば、柴を刈った里人がおかの渡し（ひな川の流れ渡し）を川舟に乗って楽しそうに我が家へ帰っていく、その情景を詠んだものです。

#### 岡山と岡山の由来

上氏家町と下氏家町は、昔、ひな川（日野川）が岡山の方へ流れていた時代（はつきり年代は分かりませんが、うんげと呼ばれる以前）には、岡村と呼んでいたとい伝えられました。

そして、岡山の西南にある小高い山を岡山と呼んだそうです。

